

CLUB NEWS

2020-2021年度国際ロータリーテーマ
ロータリーは機会の扉を開く

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック

山形中央ロータリークラブ



新たな試練を機会に、ロータリアンとして創造力と柔軟性で乗り越えよう!

vol.

1251

2020-2021
MEETING

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日12:30~13:30(但し第5週は18:30~) 会場 ホテルメトロポリタン山形

- | | | |
|-----------------|----------------|--------------------------|
| ■ 会長 小林 敏 郎 | ■ 職業奉仕 佐竹 純 一 | ■ 副 幹 事 佐藤 太 |
| ■ 会長エレクト 長橋 正 人 | ■ 社会奉仕 小泉 俊 哉 | ■ 会 計 深瀬 隆 志 |
| ■ 副 会 長 石山 徳 昭 | ■ 青少年奉仕 相川 博 昭 | ■ S A A 川合 勝 芳 |
| ■ 直前会長 伊藤 和 子 | ■ 国際奉仕 中川 清 美 | 国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク(ドイツ) |
| ■ クラブ管理運営 長谷川 淳 | ■ 幹 事 玉ノ井 憲 史 | 第2800地区ガバナー 齋藤 榮助(米沢中央) |
| | | 第5ブロックガバナー補佐 北門 一忠(上山) |



ロータリーは機会の扉を開く

◆日時/2021.3.2 12:30 ◆例会場/ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング/国歌・奉仕の理想

会長挨拶



みなさん、こんにちは。3月、雪解けが進み、春の足音が聞こえる季節となりました。ワクチン接種の報道も多くなり、来月以降、摂取候補者となられる方も多くいらっしゃると思いますが、感染予防には油断なくお過ごし頂ければと思います。

本日のお客様をご紹介します。公益社団法人山形交響楽協会 専務理事 西濱秀樹さんです。お忙しい中、お出でいただきましてありがとうございます。本日の卓話どうかよろしくをお願いします。

3月は「水と衛生」月間です。今日は、データで見る世界の「水と衛生」の現状(2017年)をご紹介します。安全な水と衛生設備の利用は、すべての人がもつべき権利と言われております。日本ではこれは当たり前過ぎて、今さら問題にすべきことでもありません。しかし、世界的に見ると、汚染水で病気になる人や命を落とす人が後を絶たないと言われております。世界人口76億人のうち、71%(53億人)が安全に管

理された水を飲める一方、残り29%(22億人)には安全な飲料水がないそうです。特に2%(1.5億人)は池や川の水を直接利用し、その半数以上がアフリカに居住しております。

世界人口76億人のうち、トイレがなく屋外排せつを強いられている生活者はどのくらいいるでしょうか。9%(約7億人)と言われております。この数字は2000年から17年にかけて半減したものの、急速に人口増加が進む地域ではトイレの設置が追いつかない状況が生まれているそうです。そして、毎日700人を超える子どもが、安全でない飲み水と不衛生な生活で病気を引き起こし、亡くなっております。5歳未満では、エイズ、マラリア、はしかで亡くなる合計数と同等だといえます。

ロータリーの活動は、寄付金を通じて、安全な水と衛生設備を提供した上で、衛生や伝染病予防に関する教育も行うことで、コミュニティ全体の生活を改善し、未来を担う子どもたちを支えております。3月「水と衛生」月間を機会として、私たちの活動の意義を改めて考えて頂ければと思います。

今日もどうかよろしくをお願いします。



玉ノ井憲史/西濱様本日は卓話ありがとうございました。山形いや日本の山響から世界の山響を目指して下さい。

小林敏郎/本日も多くの皆様にご出席いただきましてありがとうございます。西濱様、卓話ありがとうございました。



3月 会員誕生
創立企業日

誕生日

後藤完司 板垣喜代志
川合勝芳 伊藤和子
江目祐一 石山徳昭

企業創立記念日

鹿野淳一 (株)山形企業
長橋正人 (株)長橋製粉
石山徳昭 (有)石山設計事務所

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	38名	—	20名	—
修正出席				
他クラブでメイクアップされた会員				



ゲスト卓話

コロナ禍の中で歩みを止めないオーケストラ 山形交響楽団

～困難の中で打ち出す新機軸…山形県民への感謝を込めて～

山形交響楽団 専務理事 西濱秀樹氏

短い時間ですが山形交響楽団のお話を少しさせて頂きたいと思います。

簡単に自己紹介をします。私は大阪生まれの大阪育ちで、初めて県外で暮らすことになったのが山形です。関西フィルハーモニーというオーケストラで31歳の時に経営責任者になりました。その時すでに関フィルには累積債務が5億あり、さらに阪神淡路大震災の影響で毎年1億強の負債を抱えていましたが経営再建の支援を受け、乗り越えることができました。日本で一番潰れかけていた関フィルはヨーロッパツアーを行えるまでになりました。その後、教育事業として5年間ほど予備校経営を行っていました。ある時山形交響楽団からお話を頂きました。以前から色々な楽団からもお話を頂いていましたが、山形なら新しいことができるのではないかと、そして園部理事長にお会いして山形に行くことを決めました。園部理事長は無報酬で一人仕事をされており、なおかつ特別な空気を持った方でした。この時の山響は非常な危機的状況ではありましたが、お話を聞いてまだ何とかかなと思いました。再建に腰をすえることも大事だと思い、家族の了承を得て山形と一緒に来ました。累積債務を抱えた険しい状況でしたが、単年度黒字を出せる状態になりました。入場率が以前では57%でしたが、今は95%を超えています。

楽団員の待遇は月給制、企業の雇用と同じで年収が400万円切るくらいです。お隣の仙台フィルは万年赤字ですが、財団や市の手厚い支援によって年収は我々の1.5倍以上あります。仙台フィルには負けたくない、ナンバーワンになりたいという思いは常に持って、毎年どこにも負けないラインナップを組んでいるつもりです。

私たちが赤字を出さないように必死になっている時、コロナウイルスが発生しました。山響の再出発したばかりの時に、まさに青天の霹靂でした。コロナウイルスがなければ色んなことが好転していくはずでした。

現在プロオーケストラは全国に38あり、毎年聞きに来て下さるお客様は約600万人におよびます。芸術的なオーケストラで順位をつけるのは難しいですが、音楽専門誌のランキングで山響は6位に入りました。全国のトップオーケストラの一角を山形交響楽団が占めているのです。

年間予算が5億円で、65%は事業収入でまかなっています。オーケストラで動くのが150回、アンサンブルのような小規模なコンサートは120回ほどあります。間違いなく日本で最も多忙なオーケストラは山形交響楽団です。残りの収入は、県と山形市からの支援の五千万で22%。国からである文化庁からの支援の5千万の10%が入ります。文化庁から支援が出るのは日本のトップレベルの団体のみです。この他にも5千万程度の支援を民間や財団のご支援や寄付を頂戴して成り立っています。コロナウイルスの影響で何が起きたかという、数字の面で言えば事業収入の大体3億5千万ぐらいのうちの1億5千万が吹っ飛びました。

我々は活動休止も行いました。コロナウイルスで一番に言える難しさは、対策が極めて厳しい社会的な状況の中で活動を続けることです。しかしやり遂げれば美談になります。

大野和士という人がいます。彼は今新国立劇場の音楽監督ですが、1990年代にはザグレブユーゴスラビア管弦楽団の音楽監督でした。この頃のユーゴスラビアは内戦が最も激しい時でしたが、砲弾と悲鳴が飛び交う中でも音楽の火を消すなど、ザグレブの人たちの心を高める行くために、演奏会を続けたそうです。これは歴史に残る美談として受け継がれています。他にもシベリウスのフィンランディアという曲があります。これはシベリウスという人がフィンランドの人たちの独立を願ってロシア政府の独立への思いを込めた曲だといわれています。ロシア政府はこのフィンランディアで支配が覆されること恐れ、演奏禁止にしました。しかしフィンランドの人は負けませんでした。フィンランディアは賛美歌に形を変え、教会の中で歌い続けられ、フィンランドの独立運動に繋がっていきました。

ですがコロナは全くの逆です。音楽を届けようとするのがコロナウイルスの感染拡大に繋がるためできなくなったのです。音楽好きな音楽をやるために生まれてきています。自分の命を賭けて取り組んできたものを否定されることは存在の否定に他なりません。4月1日に私は全楽員を集めて活動の無期限休止を宣言しました。その時に全員に伝えたのは、休止することは私たちがしてきたことを否定しているのではない。コロナの中でも社会情勢で世の中が落ち着いてき

た時にまた始めようと彼らに伝えました。

見て頂きたい映像を用意しました。「再開への軌跡 山形交響楽団」で検索頂くとYouTubeにたくさん出てきますので、ご覧いただけたら嬉しいです。

3月下旬からコンサートが相次いで中止になり、活動休止を宣言した4月から6月13日に無観客ライブという形で活動再開を行うことになりました。創立指揮者が今存命で元気な街は本当に少ないです。村川さんは86歳ですが現役バリバリで、一昨日も山牛と一緒にご飯を食べましたが、とても肉を召し上がっていました。肉食の方で元気な方が多く、現役最高齢だった日本人の朝比奈隆さんは93歳まで現役でしたが、直前まで300gのステーキをぺろりと食べていました。我々が活動再開するならば、村川先生と共にやっているとご登場いただきました。シベリウスのアンダンテフェスティボという曲で活動再開後、初めて集まって練習を行いました。メンバーの譜面台は弦楽器は通常二人に一つですが、一人一本、それから距離を1.5メートル以上を空けています。7月7日には初めて250人のお客様を入れての活動再開しました。全ての演奏が終わっても拍手がずっと続いていれば、指揮者が出て名誉のカーテンコールになります。指揮者が退場しても拍手は鳴り止まらず、もう一度入場するということが起こりました。今まで私も30年近くオーケストラ見てきましたが、こんなシーンを初めて見ました。メンバーもみんな涙ぐんでいました。このことは私もずっと忘れることはないだろうと思います。

これが3月27日で我々の活動が止まった瞬間の映像です。世界的ジャズピアニストにしてクラシカルなピアニストの小曽根真さんと、彼の「もがみ」という曲をやまぎん県民ホールで世界初演になる29日の開催予定のコンサートのリハーサルを行っていました。小曽根さんが井上ひさしさんに依頼されて国民文化祭の時に作られた「もがみ」という曲を、今回新しいホールのオープンに向けて、小曽根さんが山形を世界に発信したいという思いで何度も山形にいられて、この曲を作りあげました。休止の知らせをしたあと、まだ楽譜2ページ分の練習が残っていました。演奏できる見込みがない曲を練習する意味は、山形交響楽団のメンバーの意地と音楽にける魂であったのだらうと思います。最後の2ページを演奏して、本当にここで我々の活動は6月先まで止まってしまいました。休止の間に何をするのかという、過去に録音した音源、楽団員のリモートワークなど、いろんな形で音楽を今の技術を使い、発信を止めることはありませんでした。我々はこの1年間で10回のライブ配信を行いました。うち3回は無観客です。全国のオケの中で10回の配信を行ったのは我々だけです。みなさんのお手元にお渡ししたDVDが3月14日の無観客ライブで、記念すべき記録なんです。全国で3番目

に我々が取り上げました。それが世界配信されて、リアルタイムで3万人の方が視聴し、うち9千人は海外の方でした。今も延べ20万人以上の方がこのDVDの映像をご覧になってます。今我々ができることは山形交響楽団がハブになって、山形の魅力を世界に発信することだと思います。ライブ配信の中にも山形の魅力を我々が独自に映像を作って配信しました。TwitterやSNSで我々の映像を見て山形に行きたいという声が増えました。東根の神町の有名な77歳のさくらんぼ農家の方を取材して配信した翌日には注文が増えたそうです。多くの人達を繋いでいくことで、県民の皆さんを、山形の魅力を打ち出していくことを全力で取り組んで参りました。ありがたいことにこの規模の楽団に約8千万の寄付を頂戴しました。山形県内だけではなく、全国から寄付が届けられています。これからも山形交響楽団は山形を世界に発信していきたいです。来年で50周年を迎えます。それに向けてフルオケやアンサンブルで35市町村全ての観光拠点を巡って、映像を作成して世界配信をしたいと思っています。そんな活動を続けながら僕らは多くの方々のご支援に応えられるオケを作ります。年間150回の演奏会の内、年間70回と多くを占めるのは、子供達に向けたスクールコンサートです。子供の頃にオーケストラを聞く機会が定期的にある街は山形だけです。ここまで協力的に感性教育で恵まれた街は山形しかないわけです。創立48年の中で延べ300万人の子供達に聞いてもらいました。これが山形の文化の土台であり、多く寄せられるご支援に繋がっていると思います。皆様に会員になっていただいて、人生の中で少しの時間でも音楽に触れ合って皆さんの力になればと思います。ご家族でもお越しいただければ嬉しいです。

山形交響楽団はコロナの中だからこそ世界に目線移して活動を続けてきました。今年度は何とかなりましたが、来年度2021年度は巨額の赤字予算を編成しております。危機が本格化するの21年度以降であるというのは多くの方がおっしゃっていますがその通りです。ただ我々は潰されずにこれからも山形を発信していきたいと思っています。

